

大学教育の「いま」を発信する

オープンエデュケーションは大学にとって、大学教育の「いま」を発信する活動です。講義資料や授業ビデオをオープンコースウェアで配信したり、大学教員がムークを開講することで、学生ではない一般の人たちが大学の教育内容を知ったり、インターネット上で実際に学んだりできます。英語の教材を使えば、世界にも範囲が広がります。大学にとってオープンエデュケーションの活動は、大学教育の面白さや魅力を世の中に伝え、高校生や留学生に大学の魅力を訴えるチャンスとなります。

教育を「オープン」にすることで教育の「質」が高まる

オープンエデュケーションの広がりによって、世界中でさまざまな分野の良質なオープン教材が公開されています。同じ大学の教員同士が、また世界中の教員が、普段の講義で使っている講義資料や講義ビデオをオープン教材として共有することで、互いに刺激あってよりよい教育を創り出すことができるでしょう。学生にとってもオープン教材は便利です。お金をかけずとも、講義内容を予習・復習することができるため、講義で学んだ内容を確実に身につけることが可能になるでしょう。このように、オープンエデュケーションは大学の「外」に対してだけでなく「中」に対しても、大きなインパクトを持つのです。

センター紹介

オープンエデュケーションセンターは、ICT を活用した教育・学習支援を行うとともに、OER (Open Educational Resources) に関する研究開発を推進するために平成26年4月に新設されました。オープン教材を作りたい、使ってみたい教員や学生を、専門の教職員が力強くサポートします。映像を用いた補助教材、事前学習用の e ラーニング教材、反転学習やアクティブラーニングなどの導入、さらにはオープン教材の開発など、教育手法の改善に取り組んでみませんか。

北海道大学 オープンエデュケーションセンター CENTER FOR OPEN EDUCATION, HOKKAIDO UNIVERSITY

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目
高等教育推進機構1階 N101
TEL 011-706-8080
FAX 011-706-8082
Email contact@open-ed.hokudai.ac.jp
URL <http://www.open-ed.hokudai.jp>



北海道大学 オープン エデュケーション センター

CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY

あなたが創る
学びがある

オープンエデュケーションと 未来の学び

文・重田勝介 准教授

世界中でひろがる「オープンエデュケーション」

世界中で、インターネット上で広く教育機会を提供する活動「オープンエデュケーション」が活発になっています。大学をはじめとする様々な教育機関や個人が、ネット上で自由に使えるオープン教材（OER）を公開し、多くの大学がオープンコースウェア（OCW）とよばれる大学教育に使われる教材を無料で公開しています。また、教育ベンチャー企業や大学が数万人規模の学習者を集めるムーク（MOOC）というオンライン教育も急速に広がっており、その受講者は全世界で1千万人を超えています。

オープン教材(OER)をつくる

反転授業や予習復習用の教材制作をサポートします

「学び」を拓く、オープン教材

オープン教材（Open Educational Resources）とは、インターネット上で誰もが自由に使えるデジタル教材です。オープンコースウェア（OCW）で配信している授業記録型の教材、個人学習と集団学習をつなげる相互補完型の教材など、用途にあわせた教材制作をお手伝いします。オープン教材によってみなさんの教えと学びを自由に「表現」し、これからの教育を楽しく「創造」してみませんか。

個人学習 × 集団学習 「ブレンディッド・ラーニング」という方法

近年、オンラインでの個人学習と教室での集団学習を相互補完的に組み合わせた教育実践が増えてきています。そのひとつ「反転授業」では、学習者が授業に先立ちデジタル教材で学び、知識習得を済ませます。そして授業では、学んだ知識の確認やディスカッションなどの協同学習により、習得した知識を「使う」活動を行います。反転授業用の教材を設計する場合、オンラインでの予習と授業時間の活動との間に、明確な「つながり」を持たせることが重要です。ご興味のある方は、お気軽にご相談ください。

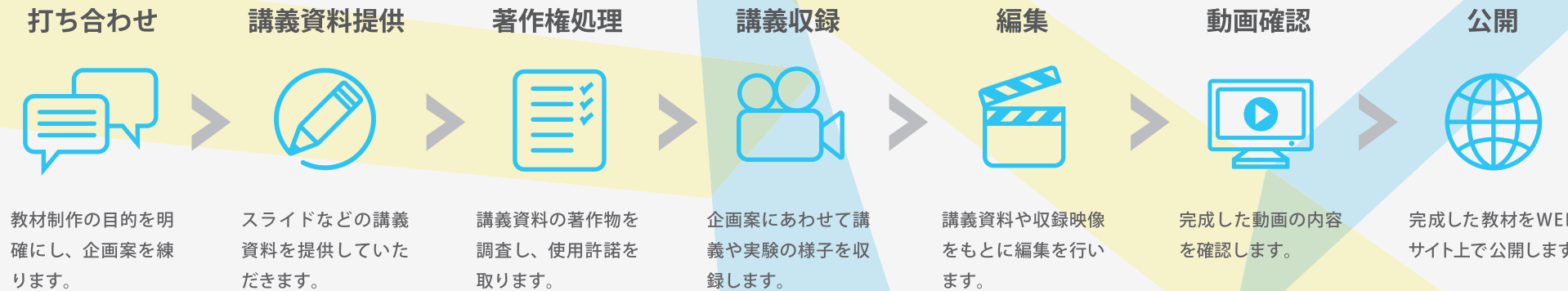
オープン教材づくりを 力強くサポート！

北海道大学
オープンエデュケーション
センター

CENTER FOR OPEN EDUCATION
HOKKAIDO UNIVERSITY

教材のデジタル化、ビデオ制作、著作権処理など、オープンエデュケーションセンターの専門スタッフが、オープン教材の制作をお手伝いします。

制作フロー



小林幸徳 教授

北海道大学 高等教育推進機構
オープンエデュケーションセンター長

映像を活用した教材になったときの「！」をぜひ体験していただきたいと思います。

● 教材制作のきっかけ
自身の講義で「グループごとの実験と講義のスケジュールがあわない」という問題がありました。学生が予習や復習に役立てられる「実験のビデオ教材」をつくれば、スケジュールの不一致を解消できるだけでなく、実験の理解度がより深まるのではないかと期待しました。

● 制作を終えて
テロップや静止画が効果的に挿入され、実際の実験以上に内容が分かりやすくなりました。著作権・教材設計・デザインの専門スタッフのアドバイスによる教材改善も期待できます。この経験を生かし、将来は学内外で活用できるオープン教材の制作にも取り組みたいです。

教材制作レポート

あなたが創る学びのかたち - 制作レポート #01
「センター長、デジタル教材をつくる」編

01 打ち合わせ



グループごとに実施する実験と講義のスケジュールの不一致を解消したい

- 予習と復習の両方に活用できる補助教材の制作を希望
- パワーポイントを用いた理論説明教材を実験映像に合成した編集を希望

02 板書収録



パワーポイントを用いた教材をタブレット端末で制作。書き込みながら説明を録音

- 板書のようなイメージも出て、活きた教材となり好印象
- 著作権処理も、専門のスタッフに相談することで事前に解決できる

03 実験収録



テスト収録と本番の2回に分けて実施。原稿はつくらず、普段の要領で実験収録

- 撮影スタッフの、照明やカメラの設置の手際よさに感心
- 板書収録と実験テスト収録を合成した試作動画をみて、本番収録と編集方針について打ち合わせ

04 映像完成



完成した映像教材にビックリ！テロップなどの演出が効果的で分かりやすい

- ほかの先生にもすすんで紹介したくなるほどの出来栄に感激
- スタジオ教室での収録などを組み合わせると、より完成度の高い教材の制作が可能